

放送教育とは何だろうか？

～放送教育の昔と今～

放送教育研究委員会

「放送教育」（日本大百科全書より）

広く放送を利用して展開される教育活動である。

1935年 NHKの学校放送が全国規模で実施され始める。

1980年 アナログテレビにおけるビットキャスト放送(多重放送の草分け)



地上デジタル放送・BS・CS・インターネット
利用分野も多方面へ

放送教育とは

日本放送教育学会が1982年に示した定義

「放送教育とは、テレビ、ラジオをはじめ、これに類似する通信媒体およびそれらによる情報の制作と利用により、学校教育、社会教育などにおける教育内容を拡充し、教育方法を改善する営みである」

日本大百科全書（ニッポニカ）より

「**放送教育**とは、テレビ、ラジオをはじめ、これに**類似する通信媒体**およびそれらによる情報の制作と利用により、学校教育、社会教育などにおける教育内容を拡充し、**教育方法を改善する営み**である」

教育方法を改善する営み

山梨県は、全国でも先進的な取り組みをしてきた…と聞いています。

OHP・教室テレビ・各種放送機材などなど…そして視聴覚実習教員の配置も…

そして現在…

教員の一人一台端末／生徒3人に1台端末　そして　BYOD

「類似する通信媒体」　→　メインの教育機器

ちなみに、この部会の「放送教育研究委員会」は、定義とは違うと思われ
…ということ…

放送教育の立場から…

放送教育と情報教育の境界は、あいまいになってきている。

①アナログ　→　デジタル

②素材（映像・音など）の加工や扱い　アナログ　→　デジタル
以前は、機材とある程度の知識・技術が必要だったが…

↓

やろうと思えば、誰でも出来る。※法的な部分を無視すれば…

※教育は、著作権法上の優遇措置はあるものの、
「個人で楽しむ範囲」ではないので、様々な配慮が必要になる。

放送教育の立場から……

PCが身近になった（編集ソフトでデジタルの編集）

仕事道具 → 日常のツール(オンラインゲーム・eスポーツ)※キーボードは苦手

スマホ（SNS・Instagram・YOUTUBE・TikTokなど）

画像加工（誰でも簡単に編集→ネット環境へアップ）

生徒もこんなノリで、始めます。

「編集なんて簡単！」「おもしろいことができます。」みたいな雰囲気です。

↓しかし、すぐに……

著作権に関わるところで、「難しさを実感」し始めます。

身近になったからこそ懸念

AI編集ツールで出来ること

背景変更（空の置き換え・人物切り取り・背景を消すetc）

スマホ

消しゴムマジック

ポートレートライト

ぼかし加工

切り抜き・回転

フィルタ加工

フェイク

身近になったからこそその懸念（具体的に）

いじめ
人権侵害
著作権違反
リアルとは何か

編集でフェイクはいくらでもつくれる。
自分にとって都合が良い結論
不都合な真実の消去
無かったものも有りになれる

時代に合わせた放送教育の重要性

教育内容を拡充し、教育方法を改善する営み

日本大百科全書（ニッポニカ）より

顔が見えないこと・匿名性が高いと思いつくことで起こる、人間のずるさ。



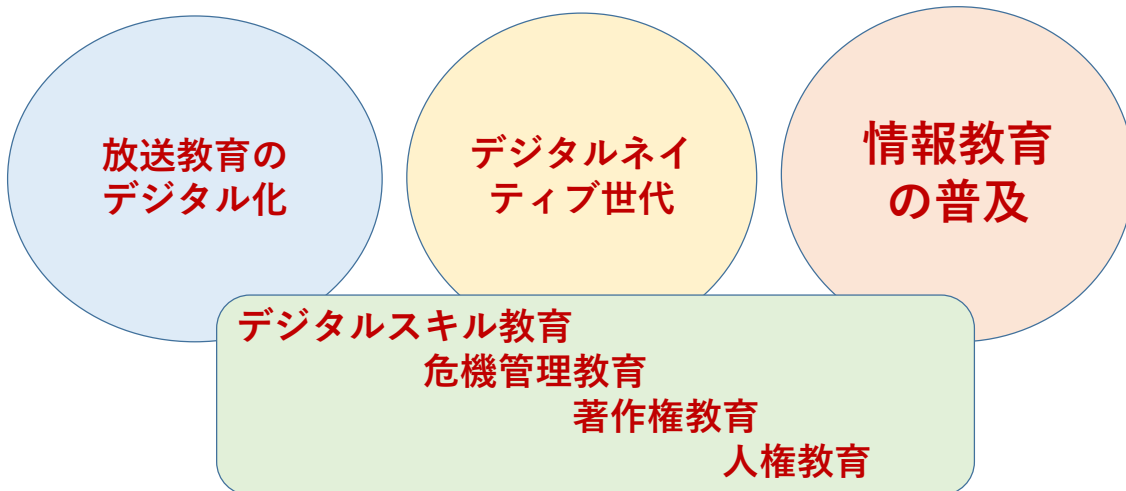
基本に立ち返り、デジタルな時代を生きる人間教育

・デジタルツールを使った人間教育の必要性

権利に関わる教育の必要性

個人に求められる道徳観・良心が、より必要とされる。

放送教育・情報教育共通の課題は……



最後に各種報告です。

放送活動に関わる生徒の、今年度の主な成果（全国大会）

- ①NHK杯全国高校放送コンテスト
アナウンス部門 優秀賞（全国3位）
ラジオドキュメント部門 制作奨励賞（全国ベスト40）
テレビドキュメント部門 入選（ベスト20）
- ②全国総合文化祭（東京大会）
アナウンス部門 優秀賞（最高賞）・審査員特別賞